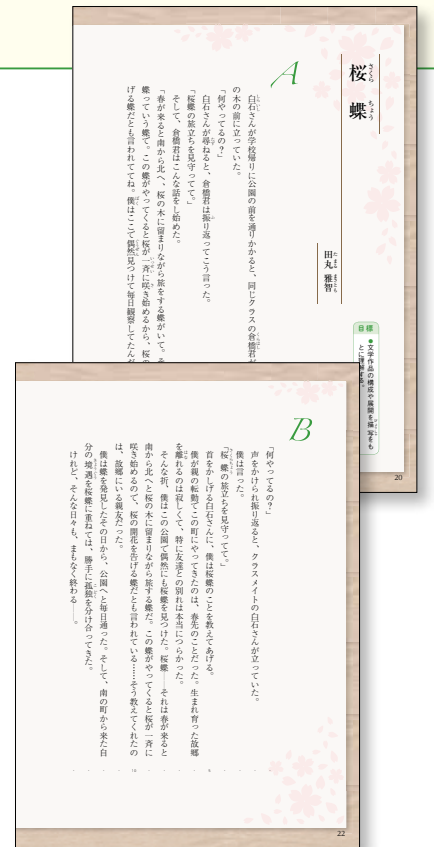


文学，新しい可能性

一年

P18

桜蝶（物語・小説）



田丸雅智先生（ショートショート作家）

表現や描き方によって、同じアイデアでも作品の見え方が異なってくる。それを味わっていたくために考えたのは、二作を同じ設定にし、同じ場面から始め、同じ結末で終わらせるということです。

これによって、AとBで何が違うのか、内容面もさることながら、表現面や描き方の面で比較しやすいように意図しました。表現の違いから生じる差を考察し、他の文学作品に触れる際の読みを深めるきっかけになればと思っています。

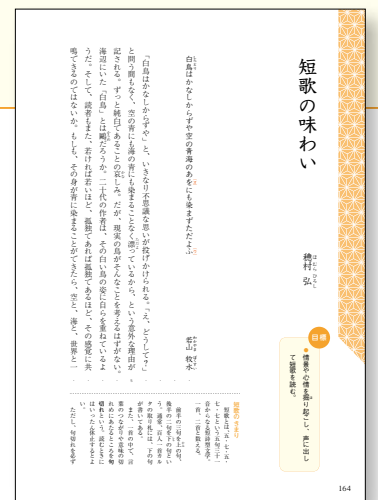
今回、同じアイデアを異なる視点から二作描くという試みは、私にとっても新しい挑戦となりました。短くて不思議な二作を楽しんでいただければ幸いです。



二年

P164

短歌の味わい（短歌）



穂村弘先生（歌人）

命とは何か。心とは何か。時間とは何か。青春とは何か。それらの問いに答えることは難しい。あまりにも本質的な問いであり、太陽を直接は見られないように直視することさえできないのだ。無理に見つめたら目を焼かれてしまいうだろう。だが、優れた文学作品を通した時、初めてうっすらとその姿が見えてくることもある。子どもの頃、下敷き越しに日蝕の太陽を見つめたことを思い出す。嗚呼、欠けてゆく、欠けてゆく、欠けてゆく……、日蝕自体もさることながら、地球が怖ろしい速さで動いていることが実感できてショックだった。太陽が、星の動きが、時間が目に見えるのだ。たった一枚の下敷きが大きなことを伝えてくれた。同様に、目の前の短歌の言葉について丁寧に考えることで、その奥にある命や心や時間や青春の姿が浮かび上がってくる。そんな体験を共有したいと思う。



三年

P22

なぜ物語が必要なのか（随筆）



小川洋子先生（小説家）

タイトルには、必要という言葉を使っていますが、物語と人の関係は、もっと自由で自然なものかもしれません。なぜ、と問いを発する間もなく、想像の世界に思いを巡らせている。それがたぶん、本来の姿なのでしょう。

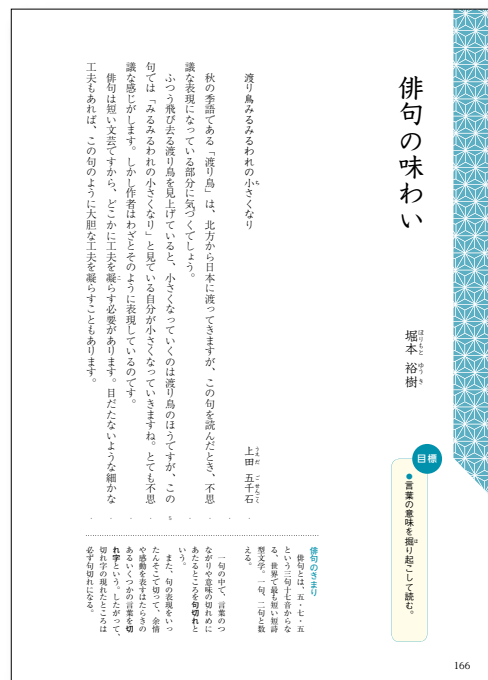
私が不思議に思うのは、物語は言葉で成り立っているのに、それに没頭している時、自分が無言の世界にいる気持ちになることです。登場人物たちと会話を交わしながら、同時に無言の安らさに浸っているのです。現実の生活で私たちは、一生懸命言葉を取り繕って自分の考えを説明したり、相手を説得したりします。時に、言葉によって誤魔化されたり傷つけられたりします。

しかし、物語に触れている間は、言葉の不自由さを振り切り、無言で満たされた心の奥底を旅することができます。人はよく、「言葉にできないくらい感動した」と言います。人間にとって本当に大事な真実は、無言の中に潜んでいるのでしょうか。だからこそ私たちの傍らにはいつも、物語が寄り添ってくれているのです。

三年

P166

俳句の味わい（俳句）



堀本裕樹先生（俳人）

俳句は五・七・五の十七音でできた、気軽に触れられるけれど奥深い、世界一短い詩です。俳句の楽しみ方は大まかに言って、三つあると思います。一つは自分で俳句をつくること、二つは俳句を鑑賞すること、三つは自作の俳句を持ち寄って句会をすることです。どのアプローチからでも構わないと思いますので、俳句に触れてみてください。

歳時記をめくって、さまざまな季語を覚えながら、日本語の豊かさに触れる喜びを感じましょう。



現代と未来をつなぐ 説明的文章, メディア

一年

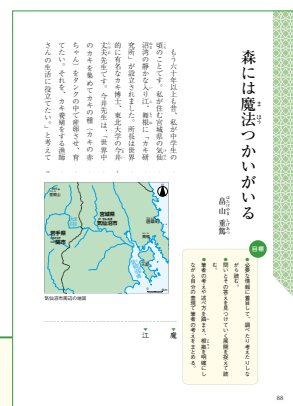
P86

森には魔法つかいがいる (説明)

畠山重篤先生 (カキ・ホタテ養殖家)

人間の生活には、どこに住んでいても、必ず川の水が関与しています。森と川と海、その中に人間の生活もあるわけです。鉄と生き物の関係、特に植物との関係を知ること、すごく意味があるというのです。その入り口にこの教科書がありますので、ぜひみんなに読んでいただいて、将来いろいろなことを勉強する入り口にしていただきたい。

何でも言葉を理解しなければ、全ての教科を理解できないと思います。基本は言葉ですよ、言葉を理解して初めておもしろみがわく。やはり国語です。



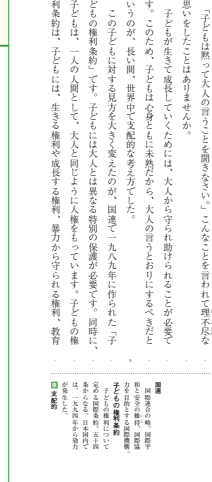
一年

P170

子どもの権利 (説明)

子どもの権利

大谷美紀子



大谷美紀子先生 (弁護士・国連子どもの権利委員会委員)

「子どもの権利条約」を知っていますか？

世界中の子どもの権利を守るために、国連が作った条約です。全ての子どもに、子どもの権利条約を知ってもらいたいと思います。子どもの人権を学ぶことは、自分を大切にすると同時に、他人を思いやる生き方を身につけるための力になります。そして、このことが、平和な社会を築くことにつながっています。また、子どもの権利という観点から、身近なところで、さらに、日本の中の、そして、世界の各地の子どもたちの問題について関心をもち、考えてみてもらいたいと思います。

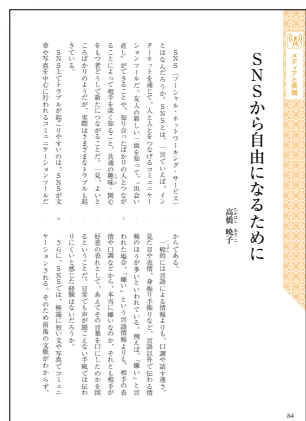
二年

P84

SNSから自由になるために (メディアと表現)



高橋暁子先生 (ITジャーナリスト)



SNSはものすごく便利で、とても楽しいものです。私もとても好きです。だけど同時に、とても使い方が難しいツールだと思います。コミュニケーションがものすごく難しく、自分が思ったとおりに相手に伝わらなかったり、相手の気持ちがあまく伝わってこなかったりということもたくさんあります。SNSは道具に過ぎないのです。道具に振り回されないでください。自分の生活、人生、学校生活、友人関係や家族関係、そういうものがいちばん大事です。あくまでSNSはそういうものを楽しく豊かにするために使ってください。

三年

P60

メディア・リテラシーはなぜ必要か? (メディアと表現)

森達也先生 (映画監督)

紙コップがあります。下から見たら丸。横から見たら台形。上から見たら大きな丸。どこから見ると全然違う。ただの紙コップでもそうです。みんなの真実は全然違う。それが世界です。「事実」は一つです。「真実」は一つではない。だから豊かなんです。でも、もしかしたらスマホとかネットとか、あるいは今のメディアも含めてこうしたことを否定してしまう。「紙コップは台形です。」と、テレビや新聞、スマホが言っている、...そうじゃない。誰かが見たのと、自分が見たものは全然違うかもしれない。情報ってそういうものです。その意識をもつことがメディアをうまく使うことにつながる。その意識がなければ、より大きなまちがいが起きるかもしれない。そういう社会にしないために、リテラシー、メディアについていろいろ学んで、知ってください。



二年

P194

ガイアの知性 (評論)

龍村仁先生 (映画監督)

イルカなどの芸は、彼らが好きでやっている。好きというより、人間が思うとおりにやってあげると喜ぶから、うれしいんだという言い方でもいい。調教師は教えたつもりでも、彼らはおもしろいからやっているというのが本当なんです。

